農林金融2008年６月号

欧州の協同組合銀行における国際会計基準第32号への対応状況

(重頭ユカリ)

国際会計基準審議会（IASB）が02年６月に公表した国際会計基準第32号の修正公開草案では、協同組合の出資金が負債に分類されることとなった。欧州の協同組合陣営がロビー活動を行った結果導入されたIFRIC解釈指針第２号（04年11月）では、組合員の出資金は事業体が組合員の出資金の償還を無条件に拒否できる権利を有している場合には資本に分類されることとなり、フランスやフィンランドの協同組合銀行グループの単協では、これに即した定款の変更が行われた。

現在進展しているIASBとアメリカの会計基準のコンバージェンスにおいて、再び多くの協同組合の出資金が負債に分類される可能性が生じており、各国の協同組合陣営は協力してこの問題に対応していく必要がある。

欧州の協同組合銀行グループの相互援助制度と一体性

(斉藤由理子)

欧州の協同組合銀行グループには、銀行破綻を防ぐための相互援助制度を持つものが多いが、グループの歴史的経緯、中央集権についてのスタンス、法制度等を反映し、制度の内容は多様である。

プルーデンス規制や格付において、グループを一体とみなす条件の一つが強固な相互援助制度の存在であるように、相互援助制度とグループの一体性は密接な関係を持つ。近年、イタリアのBCCでの相互援助制度の創設、ドイツの預金保全機構の強化など、グループの一体性強化の動きがみられる。この背景には、自己資本比率算定上のグループ内会員銀行向け与信のリスクウェイト０％適用やグループ格付上の条件緩和という制度変更があり、金融機関の内部管理を重視するプルーデンス規制の方向性を反映したものと考えられる。

農林金融2008年７月号

米政策改革の動向

(小針美和)

米政策改革下における生産調整政策のうち、特に米価下落の影響を緩和するための対策についてフォローした。施策の流れは、「生産調整の参加メリットとして下落時の補てん措置を導入→担い手に限定した支援策の導入→担い手の支援への重点化」としてとらえられ、07年度から、担い手への対策は水田（畑作）経営所得安定対策の収入減少影響緩和対策（いわゆるナラシ）に移行した。今後、対策初年度の補てんの状況、担い手の経営への効果および限界について検証する必要がある。

一方で、生産調整の実効性を確保するには担い手以外の農業者の協力が不可欠である。現行の仕組みのもとで、担い手以外の農業者にも生産調整への参加が経済的に有利となるメリット措置が確保されているかについても検証する必要があると考えられる。

集落営農組織への農協の金融対応の現状と今後の課題

(長谷川晃生)

07年産より水田・畑作経営所得安定対策が実施されている。07年度は制度導入に伴い集落営農組織の当面の資金調達が課題となったものの、農協による生産資材の決済時期の延期や交付金相当額の前払等の対応がなされたこともあり、集落営農組織の資金繰りは改善された。

今後は集落営農組織による機械導入が進展していくものとみられ、農協の積極的な対応が課題となろう。集落営農組織の発展段階に応じた各種支援の取組みとともに、融資相談対応には金融部門と営農部門との連携強化さらに担い手金融リーダー等の農業融資に精通した人材の育成等により、幅広い資金ニーズに積極的に応えていくことが求められる。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

農林金融2008年６月号

合併農協の到達点と課題

(石田信隆)

農協合併は改善のための手段であり、合併の効果を発揮するための取組みが不可欠である。本稿ではまず、農協の合併効果について整理する。

次に４農協の事例をみる。合併後それぞれ長い時間をかけて、合併を生かす努力を続けている。

農協合併のメリットは、専門的な事業体制の構築や組織・機構の合理化等により、ある程度は実現された。しかし一方では、組合員との関係疎遠化などのデメリットへの対策も必要であるし、さらに、多くの農協では、まだまだ効果発揮のための余地が大きいのが一般的だと思われる。

全国の大型農協にとって、合併を生かすさらなる努力が求められる。また、組合員の高齢化や農村地域経済の弱体化により、これに対応するさらに新しい発想と実践が求められている。

農林金融2008年７月号

森林組合員の林業経営意識と組合経営の課題と展望

(秋山孝臣)

中国をはじめとする木材需要の拡大により、需給は逼迫し、外材輸入が以前に比べて難しくなっていることから、国産材への需要が高まっている。

一方国内の森林は成熟化が進んでおり、伐期に達する林分が増加しているが、長期の木材価格の低迷から、林業の収益性は極めて低く、林業経営意欲が極端に低下しており、荒廃林が増えている。

本稿は、当総研が５年間実施してきた「森林組合員アンケート」の検討を通じて、森林組合経営の課題と展望を探ったものである。

森林所有者の林業離れが進んでおり、森林・林業の担い手としての森林組合への期待が高まっている。また、森林組合は団地施業による低コスト林業を目指しており、管理系の事業と販売系の事業を総合的に営んでいく必要がある。

金融市場

2008年６月号

情勢判断

1　民間部門のマインド悪化で2008年前半の景気は厳しい展開に
2　先行きの米国の住宅市場底入れと景気持ち直しに期待
3　経済・金融の動向

経済見通し

08～09年度経済見通し

今月の焦点

1　きめ細かい年金関連サービスを提供する高崎信金
　～地域金融機関と年金に関するサービス～
2　大分銀行の ＣＳＲへの取組みと店舗戦略
　～太陽の家支店を中心に～
3　サブプライム問題に影響された大手金融グループの決算

2008年７月号

情勢判断

1　投入コスト負担増で企業収益は大きく圧迫
　～インフレ懸念は徐々に高まっているが、年度内利上げは依然困難～
2　2008～09年度経済見通し（２次QE後の改訂）
3　早期利上げ予想は尚早、経済・金融の見極めに時間
4　経済・金融の動向

今月の焦点

1　住宅ローン実行後のクロスセルを進める静岡銀行
2　職員の能力向上と専門家の活用をはかる高松信金
　～地域金融機関と相談業務の推進態勢～

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。